雜　纂

中世末紀に於けるイングランドの天變による勞働法の變化と革命

朝日融溪

一、天變による勞働法の變化
二、ジョン・ボールの說敎
三、水平への運動
四、法令として現はれた奴隸解放

一、天變による勞働法の變化

黑死病 Black Death として知られた恐る可き流行病はイングランドの賤民に對しては一見不幸の如く思はれたけれども、その大局に於いて社會制度の變轉を生じたのであつた。その暴威は充分に實に悲劇的であつた。一三四八年八月に於いて南海岸の或る町にこの疫病が出現してから翌年の夏に至るまでにそれは全國の上に死と狼狽とを擴げたのであつた。ロンドンのみに於いても十萬の人々が死んだと言はれ、ノールウイチに於いて五萬七千人が亡びたのであつた。イヤルマウス Yarmouth レイセスター Leicester ヨーク York 及び他の中心地に於いて死せる者はその割合に於いて驚く可きものがあつた。市から町へ、町から村へ漫延して、それは多くの場合に於いて完全に各町村の人口を減じたのであつた。廢墟にさ

れ、荒廢された家と草の生えた街とは數年間その無慈悲なる慘害に就いての悲しい物語が傳えられた。

普遍的な恐怖が國民を打ち、恐怖に打たれた人民を森と荒寥の地とに追ひやつた。一三四九年の一月と三月とに於いて議會の集合が傳染の恐れのために延引されたのであつた。行政裁判は中止され、神聖なる奉仕は教會の多くに於いて休止された。失望は人々を氣狂ひにした。而して、それらの氣狂ひは宗教的狂亂の形式を取つた。狼狽は家族的感情の結び目をばら〳〵に引き裂き、人間の感情を尖鋭化したのであつた。醫者と僧侶とは死人のもの凄き穴を遠ざけたのみならず、兩親は子供を見捨て子供は死す可き感染の恐怖に於いて彼等の兩親を捨てたのであつた。

德義的結果は充分に悲しく、物質的結果は少なからず壓服的であつた。この疫病の結果はすべての方面に對し甚大な變化を與へたものがあつた。賤民の位置を變化することに於て疫病は時代の社會的而して經濟的組織を覆したのであつた。尙ほ獸物の群はこの傳染病によつて一掃された。例すれば一牧場に於いて死せる家畜の五千の死屍が恐ろしき廣がりに空氣を毒してゐた。その結果は食料の缺乏と勞働の消滅であつた。土地はそれを耕やす人の缺乏のために耕作されずにそのまゝとなつてゐた。穀物と麥とは暴騰した。飢饉は疫病の暴行を完成す可く脅威した。しかし、地主への純然たる災難であつたことは奴隷と勞働者とに對する最善の機會であつた。物價が缺乏のために高くなるならば、何が故に勞働者の賃銀はその割合に於いて高くならなかつたのであらうか。若し、領主の土地に働くために利用せらるゝ人の數が、その數の三分の一、若しくは、それ以上に減じられたのに、何が故に勞働者の日々の儲けを二倍若しくは三倍としなかつたのであらうか。勞働者のこの見解から合理化された實際の理論には至極信服的なものがあつたやうに思はれるのであつたが、土地所有者としての領主からの見解はこれに對し至極亂暴なものであつて、特に奴隷に對しては、その勞働が金のために計算された時、それは傭はれて働く人となること、そのことが解放せられてはゐなか

つたのであつた。そこに領主の意見に於いて時局を蔽ふために二つの頑迷な便法があつた。第一は前の賃銀若しくは慣習法によつて働く可く法律によつて勞働を餘儀なくすることであつた。第二は代償金によつて不用になしてゐた仕事をなさしむ可く奴隷を餘儀なくすることであつた。元の賃銀の二倍又は三倍を例外として働くことを拒絶した勞働者を、領主はたゞそれを怠惰の口實と見たか、或は、誇慢なる尊大の風と見たかであつた。それ故に主として時救の策として職業も又能力もない六十歳以下の自由又非自由民にして身體の强健なるものに對して元の賃銀によつて働く可き義務なることを勅令で發布したのであつた。王は是を一三四九年に於ける宣言によつて發布し、而して、食料品は前の値段によつて賣らる可きことを附加したのであつた。賃銀の割合と食料の價とは國權によつて平等にされた。(Jenks, Laws and Politics in the Middle Age, (1898) p. 178) しかし、かゝる出來事に對してかゝる法令の發布は全く自己利益のための法であつて、國家的議會の法令としてはその性質上甚だ遺憾の點が多かつたであらう。それは事象の經過を規定す可きものでなくてはならないのであつた。而して、その宣言は失敗であつた。議會は必然的に起り來たる自然の事象よりもより賢こくそれ自身を考へて二年後一の法卽ち賞讃す可き勞働法にそれを移すことによつてその宣言に效果あらしむ可く努めたのであつた。それは勞働者と職人との賃銀の割合を元の割合に固定したのみならず、彼等を一州から他州へ移すことを禁じ罰金と投獄とによつて罰せらるゝ兩者の規定の違約を禁じたのであつた。それは一三五一年のことであつた。

法令は宣言の失敗であることを證した。領主によつて恐迫された時、勞働者はその地を逃げるか、或は、その法を斷然否定するかであつた。而して、彼等が彼等の利益を防禦することに於いて聯合を形作つた時、領主はその法とその刑罰とがあるにかゝはらず、その最惡の手段を取つたのであつた。收穫物の腐敗を防ぐために領主はそれを苅り取るために一月の賃金二若しくは三ドーレクの法定金の代りに六若しくは八ドーレクを支拂はねばな

らないのであつた。若し彼がそれを拒み而して法の定めに從はんとするならば、その隣人は必要の壓迫の下に彼等自身の契約に於いてその逃走者を傭入れる可く非常に歡迎したのであつた。賃銀の增額より勞働の輕減を欲してゐたがために、自由賤民に對し勞働輕減をなさんとした企ても又等しく失敗に終つたのであつた。尙ほ惡しきことには、勞働が輕減されなかつた賤民の多くは時代の强情な精神に誘はれて反抗の態度を示したのであつて、勞働の輕減と同時に賃銀の增加を要求したのであつた。若し領主がこれに對し異議を唱ふるならば、彼等は奴隷の如く逃走し、而して、時代の浮浪人となつたのであつた。然らざれば領主をして讓步を餘儀なくす可く地方的聯合を作つたのであつた。多くの場合に於いて領王は從はざるを得なかつた。而して、輕減と賃銀の增加は普通となつた。又、領主は領主の私有地の大部分を彼等によつて耕作さるゝの慣習であつたが、その慣習も何日とはなしに見捨てる可く余儀なくされたのであつた。かくしてそれは牧場に變じられたのであつた。最初その變化は有益なものではないのであつた。而して、領主達の不平は議會に於いて再三繰り返へされたのであつた。而して、勞働者と賤民との兩方に對する更新された立法を制定したのであつた。州の長官は逃げ去つた勞働者の法外人たることを宣言す可く許されてゐた。彼等は捕えられた何日でも殺さる可きであつた。是等の多くは盜賊か、殺人犯かに事實墮落していつたのであつた。而して、それらは社會階級への烈しき害毒であつた。"Good Parliament"に於いて下院は『彼等は多くは浮浪人となり、而して、背德的生活を營み、而して、淋しき村の貧民は二三人づゝ黨派を組んで强盜と化し、下僕の大部分は彼等の盜賊の數を增し、而して、日から日へと、重罪人を增した。』(Jenks, Ibid. p. 183)と不平してゐる。奴隷は亦恐る可き傍若無人の態度を示したのであつた。しかも三十年間の永い間疫病の恐怖におびやかされてゐた。又、彼等は彼等の仕事の輕減を以つて滿足しなかつた。彼等は束縛の各法から全く彼等自身を自由にす可く彼等自身を結束し而して、自由人の權利にまで彼等の要求を進めたのであ

つた。一三七七年に通過した法令の陳述に從へば、『彼等は小作からと同樣、彼等の身體も奴隷的義務のすべての方法から全く離脱さる可く確かめた。而して彼等の上に課せらる可き如何なる束縛も又他の裁判も受けなくなつたのであつた。しかるに彼等は彼等の領主及び諸大臣の生命をおびやかし、剩さへ彼等自身を共に强大なる暴徒に結びつけ、而して、かゝる聯合によつて各人は强き腕力を以つて彼等の領主に抗す可く他を扶けることに一致した。而して、彼等の所謂領主の偉大なる損害に頑强な方法に於いて大害を與へ、又、かゝる暴舉を始めることによつて他への惡例を示した。』(Jenks, Ibid p. 231)と記してゐる。

是は勿論、抑壓的階級の一方面の陳述であつた。その基調とする所は階級的特權卽ち法律上の權利に對する或る攻擊が不正であり、而して、犯罪であると言ふ想定からであつた。是れに對して疑ひもなく、領主は、たとひそれが法と慣習とによつて允許されたものであつても階級的權利と特權とはそれがために非攻擊的なものではないとの反對な想定に對し不平す可き同じ理由を有したのであつた。奴隷は、領主の見解から言へば、無政府主義者であつたかもしれない。又、彼の主人の權利を蹂破る可く彼の偏狹的な强情な頭にそれを考へ、而して、法外的な行動を以つて領主に對した不遜な奴であつたかもしれない。奴隷は明かに法と慣習とのその基點から見れば不正な厄介な存在であつたに相違ないのであつた。しかし、法と慣習とによつて制定されたほど領主に對する權利は正しく確かなものであらうか。領主は彼が法を作つたが故に彼の有利に法を制定したのであらう。しかし、その法の制定が過去の事實によつたものであつても、時日の經過を超越してそれに絕對的價値を是認せしむ可くすべての人に對して强ふることは出來ないであらう。是れは賤民が是等の二十年後に決心しつゝあつた所の問題であつた。而して、說敎者のあるものはこれを暗示的に敎へ、又、それを解決す可く彼等を助けたのであつた。そこにかの有名なジョン・ボール John Ball があつた。

二、ジョン・ボールの說教

ジョン・ボールは國中のすべて田舍人に大聲叱呼してゐたのであつて、人間のすべては同胞たる可きことを宣言してゐた。それは中世紀に於いては、よしんば教會が永い間實際的にかゝる異端的な意見を說くことを中止してゐたのであつたけれども、かゝる見解を見失ふてはゐないのであつた。彼によつて說かれたところのものは既にジョン・ウィクリフ John Wicklif により教義上よりも又、人間存在の事實上よりも明かに理論づけられてゐたのであつて、殊に所有權の權利に關して彼等の領主と共に彼等の共產的理論をイギリス語の平易な田舍語に譯出してゐたのであつた。傳導的托鉢僧は彼等の要求に對して、『天の下にあるすべてのものは共通に於いてある可き筈である。』ことを等しく說いたのであつた。かくの如くにして奴隷の多くは、かくの如く公言するが如く權利と法との間の相違に就いての或る觀念に到達したのであつた。而して、公平に繁榮してゆく間に彼等は法が彼等を運命づけ、而して、自由である可く決定されたそれに對し奴使的狀態を嫌ふやうになつたのであつた。

時代は特にかゝる憧憬に好都合であつた。黑死病は經濟的危機を生じたのであつて、それは奴隷に對して彼等の權力の觀念と彼等自身の利益との感情とを與へたのであつた。それは輕減への要求に對して衝動を與えたのであつた。而して、彼等の奴使的狀態の改正は完き解放のための希望となつたのであつた。權威は教會と國家とに於いて弛んだのみならず、議會は政府を論難し、而して老耗せる王と彼の價値なき諸大臣との手から手綱を奪ひつゝあつた。權威への從屬的偉大なる機關であり、又、宗教的而して智識的奴役の偉大なる機械であつた中世紀それ自身の教會に於いて、人々はキリスト教徒の忠順に對して一樣に法王と長老との要求を否定する聲がきかれたのであつた。かゝる時代に於ける高き位置に於いて不正を非難し、而して、人間の權利を宣言しながら諸國を巡歷せる說教者は、王、議會及び聯合された教會よりも大衆の上に多大なる力を以つて豫言者となつたのであつ

た。斯くの如き豫言者はジョン・ボールであつた。同時代のフロアサーは彼を『ケントの氣狂ひ僧』と呼んでゐたが、その時代の社會的不正に就いての彼の狂的非難は二十年間彼の歩みにつきまとふた迫害と共に狂暴を加えたのであつた。彼は高き位置にある僧侶の富と贅澤とを攻撃することに於いてウィクリフに先行したのであつた。而して、彼は彼の生涯の終にあたつてウィクリフの教理的異端を適要したやうに思はれるのである。しかし、彼が或る原野の中の村の草原の上に於いて彼の周圍に集まつた田舍的大衆に對し人望と權力とを得たことは社會的背理に對する實際的說教としてゞあつた。

ジョン・ボールは牢獄生活から自由にされた時、民主的而して社會宗義的言論の熱を以つて特級階級とその階級の壓迫とに對し激越なる攻擊論を放つたのであつた。それはワース Wace の反響の如く、後世に於けるジャン・ジャック・ルソー Jean Jacques Rousseau の『民約論』"Social Contract" の中から同じ思想が見出されるのである。『よき人民よ、事象は品物が共通物にならん限り、而して、そこに奴隷と紳士との區別がある限りイングランドに於ける秩序はよく行く可き筈はないであらう。彼等は何の權利によつて吾人よりも偉大なる人間であるのであらうか。誰を吾人は領主と呼ぶのであらうか。若し吾人すべてがアダム Adam とイヴ Eve とを父とし、母として來たものであるならば、何が故に彼等は吾人よりもより良きものであると彼等は言ひ、又、證し得るであらうか。彼等が誇慢に費やす所のものは彼等が吾人の勞苦によつて彼等のために吾人をして得ざらしめる所のものではないのであらうか。彼等がびいろうどの衣服を着、毛皮と貂の毛で溫まつてゐるのに吾人はぼろで蔽はれてゐる。彼等が酒と香料と甘味なパンとを有するのに反し、吾人は黑パンと藁ゞ飲むに水を有するのみである。彼等は閑と奇麗な家とを有してゐる。吾人は苦痛と勞働とを有してゐる。野には雨と風とが吹き荒ぶ。しかも、彼等が彼等を華美に支える所のものは吾人であり、吾人の勞働からである。吾人は奴隷と呼ばれてゐる。而して、若し吾人が吾人の仕事をなさぬならば吾人は打た

れるであらう。』(Green, History of the English people, p. 272)と。

領主に對する奴隷の告訴は、奴隷に就ての領主の告訴の如く階級的激怒の極端な爆發であつた。彼等は多年の間彼等の都合よき時代を有してきたのであつたが、今や壓迫的法があつたにかゝはらず勞働者の賃銀は上騰したのであつた。ラングランド Langland や、プロフエサー・スキート Professors Skeet やペーヤソン Pearson や、ラングレー Langley やの詩や、意見に從へば、勞働者は繁榮によつて傷づけられてゐたのであつて、彼等は彼等の常食に於いて氣むつかしくなり、而して、漸時に生意氣になつたのであつた。ラングランドは、

"Labourers that have no land to live on but their hands,
Deigned not to dive a day on worts a night old,
Penny ale will not do, nor a piece of bacon,
But if it be fresh or fish fried or baked,
And that hot and more hot for the child of their maw,
And unless he be hired at a high rate he will child,
.....
And then curseth he the king and all his Council after,
Such laws to enforce labourers te grieve."

(Green, Ibid. p. 130)と。人民の不幸に就いてのこの働き過ぎた詩思想の中から多くのものが推定し得られると思ふ。

同時に富者によつての壓迫に對する貧者の憤激的抗議の有樣はラングレーに於いて巧みに記されてゐるのであるが、スキートの言を引用すれば、『彼(ラングレー)は飢えと饑饉と不正と壓迫とに對して戰ふ所の營養不良と過度な勞働の狀態に於ける粗野な貧民を詩として繪書いたのである。而して、すべての嚴肅なる現實と困難とは彼等を黃金として試みたのであつて火の中に試錬されてゐる。チヨサー Chaucer の諷刺はしばしば諧謔の笑ひを起さしめる。が、ラングレーの諷刺はあらゆる痛き眞理を明言す可く余儀なくした人のそれである。而して、それ

は復讐のために天に訴へんとする傷いた人の叫びであるが如くにそれほど眞に迫るのである。』(Skeat, Piers the Plowman. (1879) p. 124) と言つてゐる。ラングレーは革命家ではないのであるけれども、彼の社會的背理に就いての大膽なる非難は革命的精神を刺戟したのであつて正眞なる勞働に就いての彼の讃美は賤民の中に彼の價値の感情を培養するに力あつたのであつた。ジョン・ボールの惡口の眞意義は彼等の言語上の內容的正確さの中には横はつてはゐないのであつて、それは彼等が感激した內襲に對する反逆の精神そのものゝ中に見出さる可きものであつた。人間の自然的平等に於ける彼の主張は彼が語らんとし、又、語つたところの焦點であり、彼をして各村落に於いて無限の力たらしめた福音であつた。その村落には奴隷と勞働者とが彼等の悲哀と苦艱とに就いて思案し、且つ語り合つてゐたのであつた。彼の共產的な暴狂は恐らく眞面目なものではなかつたであらう。何故ならば、彼等は苦艱の修正への要求に於いて系統立つてはゐなかつたやうに思はれるのであつて、たゞ起り來るところの叛亂の中に奪掠す可く煽動されたのであつた。アダムとイヴとへの彼の彼等への訴えは遙かに强き效果を有したのであつた。何故ならば、それは奴隷階級から彼等の完全な解放を强行す可く彼等の社會的狀態と彼の決心の向上的意趣を奴隷の心の中に覺醒せしめたのであつた。それは一七八九年に於いて革命をなしたのはこの主張であつた。すべての人間が自然によつて平等であることを是認するならば、その背景に於ける法と慣習とのすべての力を以つてしても、如何なる人間も彼を束縛の下に保つ可き權利の存在しやう筈のないことは奴隷に對しても明瞭なことであつた。すべての人間が事實上すべての點に於いて自然によつて等しいか、或は、否かと言ふことは奴隷の結論が實質的に正されることであつた。中世紀に於いてすらも、否な如何なる時代に於いても、如何なる人間もその同僚を奴使す可き自然的權利の存しやう筈はないのであつて、神の意志に反することは無論であつた。而して、若し奴隷が最早や彼の奴使的境遇に從ふ可く拒否するならば、よしんば彼の立場に於ける土地

の法がなかつたとしても彼は正に言ふ可き道理と正義とを有してゐたのであつた。

三、水平への運動

根本的に奴隷階級を撲滅せんとする願ひは、それが主なるものであつたやうに見えたのであつたけれども、ジョン・ボールによつて宣傳された暴徒的運動の唯一の動機ではないのであつた。奴使的階級が事實的に知られてゐなかつたやうに思はれたケントの人々の中に於ける反逆の精神はエセックス Essex や、ノールフォーク Norfolk や、ソーマーセット Somerset や、コーンウォル Cornwall や、ランカシャイヤ Lancashire やヨーク York 等の人々の間に強くあつたほど強いものがあつた。それは政治的並びに社會的性質を有したのであつて、國家並びに社會の改善を願つたのであつた。かゝる危機に於ける理想は大衆的動搖に力と熱情とを與へながら事實と共に作動するものであつた。壓迫的階級が不正なる法と威壓的政治とによつて人民を搾取す可き權利を所有する限り何によつて個人の權利は擁護せられるであらうか。そこに人民は背理の矯正にその手を置かねばならないのであつて、その壓迫への憎む可き階級的立法を廢棄す可きであり、又それらの極惡なる不當稅を搾取する所の是等の不正を企つる諸大臣に復讐しなければならないのであり、然らざれば、國を失政と不幸とから救ふことは出來ないのであつた。しかも尙ほ彼等の議會の利己的な法令によつて眞實なる一般人民をしてより遙かなる不幸に陷入らしむる不當なる權力の伏在せるその誤れる『下院』を變更せねばならないのであつた。特にガウントのジョンは王位に對する彼の反逆的企計の實行から防止されねばならなかつたし、又、リチャード王は惡しき顧問官の束縛から救はれて、而して、人民の指導者として彼の諸權利に於いて守らねばならないのであつた。是等の單純なる田舍ものゝ考へに對し王は正に彼等の擁護者となり、而して、彼等の指導者として彼等の苦情に對し寬大なる心を以つて語らる可きであつた。

彼等の革命的精神によつて糾合せられた叫びは『リチ

ャード王と眞實なる下院と共に』(Skeat, Ibid. p. 153)と言ふのであつた。眞實なる立憲的政治の日は終に黎明したのであつて、議會と階級とに於ける人民の權利の簒奪者のために返報の日が來たのであつた。この激しき水平的精神に於いてケントの人々は立つたのであつて、疑ひもなく奴使的階級に荷負はされた不當なる極端稅は他の諸州に於ける人々に政治的並びに社會的色彩をその運動に與へたのであつた。

かくの如くにして奴隷は恐ろしき殘忍さをほしいまゝにしたと言へども、大衆的憧憬のすべての從屬的支流を革命の逆卷く怒濤に流し込まれた盲目的感情の單なる狙ひのない爆發ではなかつたのであつて、一揆は注意深く計畫され、而して、巧みに編制されてゐたのであつた。それは諸州の一部に限られてゐたのではなくして、國中の長さと幅とを通じての奴隷の聯合卽ち"Great Society"を育てた中央委員會をロンドンに開いたのであつた。その召集令は『John Nameless よ、John the Millers よ、John Carter よ、とすべての人を呼びかけながら、神の名に於いてすべてが立つことを命じながら、Piers Plowman はその仕事に從事す可く、又 Hob the robber を充分に追放す可きことを命じ、John Trueman とその同僚と共に手を取つて立ち……而して敵と味方とを區別せよ』(Mackinnon, A History of Modern Liberty, vol. 1. p. 314) と叫びながら遠近に派せられたのであつた。Jack the Miller は尙ほ一歩を進めて、『彼の水車をまつすぐに廻轉す可く助けることを求めよ。彼は小さく〳〵碎かれた。天の王たるものゝ子たる彼はすべてのものゝために支拂はる可きである。汝の水車に四帆をつけて正しく立たしめよ。而して、その位置を確固たらしめよ。正義と力とを以つて、訓練と意志とを以つて、力をして正義を助けしめよ。訓練は意志の前に、而して、正義は力の前に行け。——而して、吾人の水車を眞直に行かしめよ、若し、力が正義の前に行くならば、吾人の水車は傾くであらう。』(Mackinnon Ibid. p. 314) と、又『Jack Trueman よ。過失と罪惡とがあまりに永く政治されたことを理解せよ。』と、而して再び、『John Ball よ、汝はす

べてに對してよく告げた。而して、彼が汝の鐘を鳴らしたことを了解せよ。』(Mackinnon, Ibid. p. 315)と。

かくの如くにして召集された集團は巧みに編制されたのであつて、奴隷は驚く可き突發と普遍性とを以つて反亂に變じたのであつた。その結果は王と長者と大臣と領主との一樣な驚きと變じたのであつた。一三八〇年の不當稅の延滯に對する督促の執達吏は三年間にその三分の一はエセックスの各村落から追はれたのであつて、全州は二度までも武裝して立つたのであつた。法を强行することを企てゝ、その年の六月初めに革命地方へ下つた王の裁判官の主判事は彼等のために捕虜とされ、而して彼の陪審官は捕えられたのであつた。ケントは忽ちにエセックスの例に習つた。而して一週にして、エセックスとケントとの兩方の田舍の大部分の人達は合して大勢力となり、隣州からの群集がこれに加はりロンドンへの彼等の粗野なる行進をなして大道を進んだのであつた。

この老若の是等の色彩に富んだ一隊は、若し彼等の決定的熱が或る徹底的目的を語らなかつたならば、訓練された兵士より彼等を見れば寧ろ滑稽に思はれたことであらう。同時代のウォルシンガム Walsingham は『彼等は王國を征服せんがために共に集まつた。……或るものは一本の棍棒を持ち、或るものは錆びた刄、或るものは斧或るものは年月と煙とによつて煤けた弓、或るものはたつた一本の矢、それすらも只一つの羽を殘してゐるのみであつた。』(Mackinnon, Ibid. p. 315)と。その數を除けば確かに驚く可き一軍ではないのであつたが、それが進行するにつれて一萬以上を數えたのであつた。しかし、是等の錆びた刄と煤けた弓を見て、イングランドの領主と鄕士とは怖れて森の中に隱れ、王と彼の大臣等とはふるへて、而して、塔 London Tower の中に自から閉ぢ込めたのであつた。

特權階級は完全に驚愕せしめられた。匪賊は巧みに編制せられた。しかしそこには彼等の敵はゐなかつた。彼等は "Great Society" と呼ばれた一團とは別個のものであつた。それがために彼等はその瞬間恐怖によつて癱瘓したのであつた。それは一三八〇年の六月の上旬、恰か

も南方からはブラック・ヒース Blackheath に集つた數千と、北方からテームズ河の他の側に集つた數千とは相合してイングランドを民主政へと直ちに變轉せしむることに於いて彼等が示威的運動の恐怖によつて成功するであらうが如くに思はれた時であつた。僧正と領主とが土地から土地へと無慈悲に追ひ放つた。『狂的』說教者なるジョン・ボールは二十ケ年以上も教區から教區へと追はれながら時局の正に主人公であつた。而して、今やミッドルセックス Middlesex に於けるかの牢獄から自由になされたジョン・ボールは制限もなくその復讐を志したのであつた。ブラックヒースに於いて彼は今一度アダムとイヴとの價値ある教理から引用して說いたのであつた。

"When Adam delved and Eve spun, who was then the gentleman?"

と。彼はすべての人間の自然的平等なることに就いての彼の教理を新しく號叫したのであつた。彼は『若し奴隷を創ることが神の心であつたならば、世の創世の當初にあたつて神は奴隷である可きもの、而して然らざる可きものとを宣言しなかつたであらうか。かゝることは斷じてないのである。而して、奴隷なるものゝ階級が、神と自然との兩方に犯罪的であるが故に、汝等が長い束縛から自由にせらる可き時が終に來たのである。それ故に、元氣であれ、而して、國家の野に成長した雜草卽ち領主と判事と辯護士と陪審官と鄕士と尙ほ國家に害をなした又、なさんとするすべてのものを引き拔けよ。等しき自由、等しき尊さ、等しき品位、等しき權力が國中に支配し得んがために何の憐愍も加はえることなく彼等を切れ。』(Green, History of the English People. p. 250-252)と。狂的な僧侶の口に敵意ある年代記者が書きのこした殺人的攻擊演說は上述の如きものであつた。而して、直接的な成り行きの恐る可き行爲によつて判ずればその訓諭は充分にあり得たことであつた。然る後ちに流血の仕事にかゝつたのであつた。ローザリゼ Rotherlithe で大衆の指導者との會見を拒絕したリチャード王は塔內に止められ、裁判長の大僧正サッドベリー Sudbery と財政官のハレス Hales と罰せらる可き色々な他の役人は殺され

たのであつた。ジョン・ボールとワット・タイラー Wat Tyler との下に統率された南方の大群集は、六月十三日の火曜日の朝、ラムベス Lambeth の宮殿とマーシャルシー Marshalsea の牢獄とを燒いた後、ロンドン橋の方へ進んだのであつた。吊り橋は指揮者の命令によつて橋番の役人によつて下された。エセックスの人々は北方にあるアルドゲート Aldgate を通じて流れ入り、町は彼等の自由となつた。三日間彼等は南から、北から、又西から群がり續き、而して、彼等は市民の大多數に歡迎せられざる訪問者ではないのであつた。それは彼等自身の不平を匡正し、それら自身の憎惡を飽くまではらさんとしたのであつた。一揆は先づガウントのジョンの宮殿へと亂入し、掠奪し、破壞し、而して燒き去つたのであつた。ハイベリー Highbury に在る財政官の官舍や、セント・ジョン St. John の病院や、インス・オブ・コート Inns of Court や、大衆にきらはれた辯護士の家なども同じ運命に陷ちたのであつた。最初の暴徒は奪掠を抑制されてゐたのであつたが、フリート Fleet 州や、マーシャルシー州からの無賴の徒は掠奪と殺人の機會を作り出すことに於いて機を狙つたのであつた。そこにかゝる行動を禁止さる可き命令があつたにかゝはらず思ひのまゝに盜みを働いたのであつた。復讐的行動は惜しみもなく、人民の壓迫者として考へられ、又、不幸をもたらしたと考へられた人々の上に持ち來たされたのであつたが、特に辯護士と陪審官とには最もはげしく、彼等はチープサイド Cheapside にあつた斷頭臺に連れ來たられて、首が斷られたのであつた。

四、法令として現はれた奴隷解放

王と大僧正と財政官と朝臣の多くとは何の助けもなく恐怖に胸貫かれながら塔の中に群がつてゐたのであつて、そこには過去幾百年間か押し込められた人達の歷史と物語とが各部屋と廊下とに浮き掘りの如くその運命を暗示してゐたのであつた。その近くのセント・カザリンス・ヒル St. Catherins Hill に暴徒は位置を占めたのであつた。空氣に裂く復讐の叫びと市内に燒けつゝある邸宅の焰火

とは空を赤くもの凄く染め出して『最後の日』の運命を豫告するが如くに思はれたのであつた。かゝる狀態に對し如何なる方途が追求せらる可きであらうか。大膽なる精神に勵まされて常軌を脱せる奴隷の大勢はます〳〵强く攻擊し、而して、橫行したのであつた。會議し、約束し、各のものを讓步し、かくして、時を得べくサリスベリー Salisbury の伯によつて暗示されたのであつたが、王はこの方針を終に採用せざるを得なかつたのであつた。

翌日、マイル・エンド Mile End の會議に於いて奴隷階級の根本的廢止に議論は一致し、而して、王の擁護の標記として國旗は各州の人々に送られたのであつた。各村落の奴隷に對し解放の法令が、その仕事を信託された三十人の書記によつて準備された貴重なる洋皮紙の上に鮮やかに書き下されたのであつた。この宣言に於いて暴徒の大多數は滿足を表したのであつた。しかし、粗野にして無智なる精神の所有者は決して滿足しなかつたのであつた。彼等はサッドベリー Sudbury とハレス Hales との首を持たねばならぬと主張した。而して、リチャードは彼の諸大臣を免職し、而して犧牲にせざるを得なかつた。大僧正と大財政官とは侵入せる一揆によつて塔の禮拜堂から引き出され、而して、タワー・ヒル Tower Hill に於いて彼等の運命は決せられたのであつた。サッドベリーは品位と元氣とを裝ふてゐたが、彼の抗議は更にまゝ容れられず、而して、執行者の激しき一擊は支えることが出來なくて終に死にまで至らしめたのであつた。彼は不當稅の有名な創造者であり、裁判長であり、人民の友ジョン・ボール John Ball の迫害者であつて、彼の生涯は人民の復讐に供されたのであつた。サッドベリーは個人的にこれを觀れば、彼は決して嫉妬深い人間ではなくて、異端者の迫害に對しても割合に冷淡で、その性質に於いては親切で、而して、溫和であつたが、かゝる異常時に際しては、それらのことは何の關係も、何の顧慮もないのであつた。彼は貧民を輕視し、腐敗せる卑劣な俗心を持つてゐた敎會の長であつて、その上彼は憎む可き政府の代表者で、それは貧民から搾取した金を無慈悲なる奢澤に於いて是を浪費し、彼は高き位置の僧侶であつ

たけれども殺されねばならなかつた。而して、人民は無辜に壓迫せらる可きものでないことを證明するためにロンドン橋にハレスの首と同樣に晒されたのであつた。ハレス以外の高き位置にあつた他の役人卽ち不當稅の收入者ジョン・レッグ John Leg と "Good Parliament" の刑罰を免ぬがれたジョン・リン John Lynn とは大僧正とその運命を共にしたのであつた。多くの他のもの、就中、有名なるフレミッシの職工等もロンドン一揆の暴行の犧牲となつたのであつた。かくして流血の唯一の動機は政治的憤怒のみではないのであつた。都市は殺人と掠奪との伏魔殿にまで變じ、而して、かゝる暴動に於ける常の如く彼等の無節制な過去によつての狂亂は自由の精神と主張とを無にし、而して、彼等自身の上に恐る可き返報と反動とを持ち來たすことに於いて終つたのであつた。

この結末の事件に關しスミスフィルド Smithfield に於ける逸話は世人によく語られてゐる。卽ちそこに於いて王リチャードが再度の會議をなしたとき、暴徒はその地に集合して來たのであつた。その會議に於いてワット・タイラーは王の面前に於ける口論中ロンドンの市長によつて打ち倒された。リチーャド王は未だ若年の經驗少なきものであつたが更に動ずる色もなく、堂々たる態度を以つて彼の從者の憤怒を抑へたのであつた。彼は威嚇的大衆のしぼられた弓の前に眞直に馬に乘りながら『私は汝等の王である。汝等の指導者である。私に從へ、汝等が要求するすべてのものは是認されるであらう。』と (Green, ibid. p. 252) 王は叫んだのであつた。瞞着手段は成功した。暴徒は信用して王に從つた。王を彼等は常に彼等の指揮者に熱望した。而して、クラクンウオル Clerkenwall に於ける原野へと進んだ。その間に市長は市の軍隊を召集した。彼等大衆がそれは計略であつたと氣附く前に既に彼等は包圍され、而して、武裝を解かれたのであつた。而して、首都ロンドンに關する範圍に於ける革命は終つたのであつた。そこには無慈悲なる精神が要求したが如き虐殺はなかつたのであつた。欺かれた賤民は彼等の家庭に歸るために離散することが許されたのであつた。しかし、是を總括すればその復讐として、市中にうろつき

まはる人達とロンドン一揆の主謀者達とはロンドンの市長によつて捕えられ、而して、切られたのであつた。

首都ロンドンに於ける革命の失敗は諸州に於けるその流血的慘事の鎭壓を傳えたのであつた。そこには暫くの間、奴隷が領主や、地主の家を燒き、又憎む可き領主、僧侶並びに役人などを殺したのであつた。

この浮浪的なる團隊を驅逐した好戰的なノルウイチの僧正ヘンリー・スペンサ Henry Spencer はノールフォルクに於いて既にそれを阻止したのであつた。逃走した領主は彼等の隱れ場所から現はれて王とその副官との下に勢力を集め、諸州を一掃し、反抗するすべてを殺害し、而して、主判事トレシリヤン Tressilian の流血的裁判のために囚人を集めつゝあつた。トレシリヤンは彼の先輩サー・ジョン・カヴェンディシュ Sir John Cavendish がサッフォク Suffolk で捕えられ、而して、斬首されたことに復讐す可く彼の職業を利用した觀があつた。彼の取つた態度の熾烈さは何の同情をも有さなかつた有樣であつた。恐る可き仕事を以つて氣持ちを惡くしてゐた陪審判事が有害と決定することを拒絕するまで恐怖は至上權を支配してゐたのであつた。而して、議會は十一月に大赦令を發したのであつた。劍と絞架と執行人の斧との間に驅追された賤民の二三の狂的な攻擊によつて增された犧牲者の數は凡そ七千を數へたのであつて、その中にはジョン・ボール彼自身も含まれてゐた。是等の欺かれた田舍者の多くを一掃したこの蠻的な返報は解放の勅令を何日の間にか破棄してゐたのであつた。『汝等は奴隷である。而して、汝等は奴隷に止まる可きであらう。』とウォルシャム Walsham に於いて賤民の代表者に告げられたのであつた。從つて解放に關する勅令は『すべては上述せる反亂以前に彼等が慣されてゐたが如く、矛盾も、不平も、反抗も、又、故障もなく彼等が吾等に、而して他の領主に負ふところの負擔と慣習法と勞働とに從事す可きであらう。』(Green, ibid. p. 255) との文字によつて完全に破棄せられたのであつた。

王は實に權力階級の承諾なくしては、それは密接に力ある階級の利益に觸れることは、彼自身の命令では出來

ないことであると辯護的詭辯を弄したのであつたかもしれない。而して、彼がその問題を次ぎに起つた議會に提出してその意見を求めた時、それは議會の滿場一致を以つて奴隷解放に反對したのであつた。地方的にしば〳〵起つた突發事件の發生は、賤民の反抗的精神がその當時尙ほ鎭まつてはゐないことを可なり長く示しつゞけてゐたけれども、一揆は要するに奴隷の改善に對する編制された企てとしては正に失敗に歸したのであつた。